

厚生労働行政推進調査事業費補助金（腎疾患政策研究事業）
分担研究報告書

地域における診療連携体制構築：CKD協力医制度構築・難治性腎疾患の診療レベルの向上

【研究分担者】

猪阪善隆 大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学

研究要旨

日本腎臓学会はエビデンスに基づく CKD 診療ガイドラインを定期的に改訂し、CKD 診療における診療水準の向上に務めている。また、かかりつけ医を対象とした「CKD 診療ガイド 2024」を作成し、CKD 診療の均霑化を図っている。しかしながら、「CKD 診療ガイド 2024」がかかりつけ医に十分浸透している状況とは言えなかった。そこで、大阪府内科医会とも連携し、CKD 患者の紹介基準や治療アルゴリズムなどを作成し、HP などからダウンロードできるようにし、CKD 診療における診療水準の向上をはかった。

また、わが国の CKD 患者数は 2000 万人と推定されており、このような CKD 患者を腎臓専門医がすべてフォローすることができないことから、CKD 診療に関心の高いかかりつけ医を CKD 協力医として CKD 診療にあたっていただく CKD 協力医制度構築を検討した。

A. 研究目的

かかりつけ医を対象とした「CKD 診療ガイド 2024」を作成し、CKD 診療の均霑化を図っている。しかしながら、「CKD 診療ガイド 2024」がかかりつけ医に十分浸透している状況とは言えなかった。そこで、「CKD 診療ガイド 2024」の内容をより広くかかりつけ医に浸透させることを試みた。わが国の CKD 患者数は 2000 万人と推定されており、このような CKD 患者を腎臓専門医がすべてフォローすることができないことから、CKD 診療に関心の高いかかりつけ医を CKD 協力医として CKD 診療にあたっていただくための制度設計が必要である。

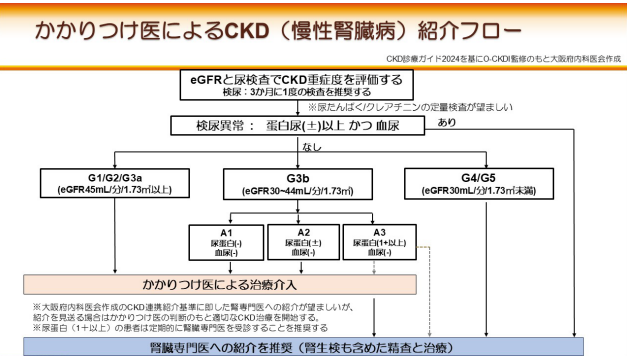
B. 研究方法

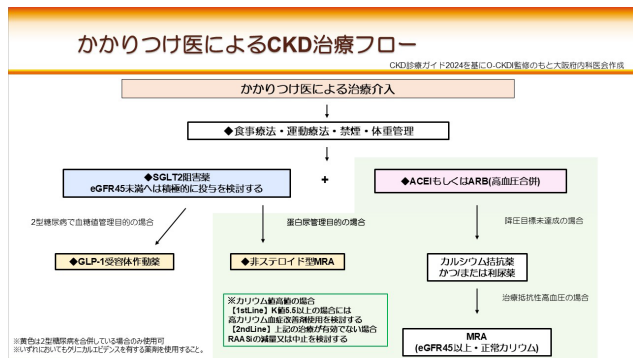
大阪府内科医会と連携し、かかりつけ医による CKD 紹介フローおよび CKD 治療フローを作成した。

CKD 協力医制度について全国調査を行い、制度設計を検討した。

C. 研究結果

大阪府内科医会と連携し、下記のような、かかりつけ医による CKD 紹介フローおよび CKD 治療フローを作成した。また、大阪府内科医会のホームページから資料をダウンロードできるようにし、かかりつけ医が診療中にすぐに参照できるようにした。さらに全国の CKD 啓発セミナー等で紹介することにより全国の CKD 診療の均霑化を図った。





また、CKD 協力医制度について全国アンケート調査を行った。一部の県では同様の仕組みを構築していたが、おおむねCKD協力医制度については肯定的であった。そこで、日本腎臓病協会と連携し、CKD 診療に関する啓発の e-learning ビデオを視聴したかかりつけ医をCKD 協力医として、その後定期的に CKD 啓発の講演会や e-learning を視聴することにより継続することができる仕組みを構築した。

D. 考察

CKD 啓発セミナー等で紹介した際には大変好評であり、全国から利用したいとの問い合わせがあり、多くのCKD 協力医に利用されるようになって考えられる。

E. 結論

作成した資料などを用いるとともに、CKD 協力医制度の導入により CKD 診療の均霑化が進むことが期待される。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし